



「普天間飛行場②」

ゆらまし 土に

理もれた歴史・文化遺産である「遺跡」は、先人たちが営んできた生活の証であり、地域の長きにわたる豊かな歴史と文化を生き生きと物語ってくれます。

普天間飛行場内には、学術的な考え方から、「地域にとって重要な遺跡」が、平成24年3月現在、14遺跡が選別されています。

宜野湾クシヌウタキ遺跡 飛行場に

広がる緑地帯の高まりに所在し、字宜野湾の聖地として現在でも信仰の対象となっています。また、遺跡にある一基の石祠や海砂利敷きの積み場所、



△宜野湾クシヌウタキ遺跡の積み



△1950年代の宜野湾メヌカー古湧泉



△新城シマヌカー古湧泉の洞穴内

問合せ・文化課

☎8933-4430

入口にある灯籠と香炉などは、琉球文化特有の村落祭祀の在り方と移り変わりを知る重要な遺跡です。

宜野湾メヌカー古湧泉 琉球石灰

岩台地特有の陥没ドリーネに形成され、現在の緑地帯に所在する古湧泉です。古湧泉は、飲料水・浴水・洗濯用水の三槽に仕切られた県内屈指の石造建築物であり、字宜野湾のかつての生活用水源と信仰の場所でもあります。

新城シマヌカー古湧泉 琉球石灰岩

台地の斜面地にあるウリカー（降り泉）様式の古湧泉です。古湧泉は、洞穴内に溜池や樋口などを設けた県内屈指の構造であり、字新城の村落移転に伴う生活用水と村落祭祀の在り方を知る重要な遺跡です。

茶 ぐわーゆんたく

101



森の川の姿、天女の水浴び場所は？

天女伝説で有名な真志喜の「森の川」、よく「天女の水浴びをした場所はどこですか？」と質問されることがあります。伝説では、奥間大親が野良仕事のあとに手足を洗ったところと、天女が水浴びをしていたところは別であったそうです。

森の川建造の記録は、泉の奥のウガンヌカタと呼ばれる山林の中に、一七二五（雍正三年）に建てられた石碑にあります。それには、伊江家は森の川と西森を拝んでいる。また、天女伝説の奥間大親の末裔で、これらの事情で泉を石で積んで囲んだと記されています。当時の姿はどうであったかはわかっていません。

大正になると森の川は風光明媚な場所として、有名無名の旅行者の手記に登場して



▲1930（昭和5）年頃の森の川

います。大正正間に鎌倉芳太郎という方が森の川の写真とスケッチを残しています。それには現在のような奥に円形の石積の拝所が、手前に四角形の石積の樋川があり、背後には森林がみられます。

その後、森の川は、戦後の簡易取水施設建設などを経て、一九六七（昭和四二年）に当時の琉球政府により名勝指定され、昭和・平成の二度の復元工事で大正の頃に近づけた姿になっています。

今となつては、どこで天女が水浴びをしていたかは定かではないですが、先人達が大切に、残してきた「森の川」、今の景観を損なうことがないようにしたいものです。

『宜野湾市史』への問合せ

文化課 市史編集係（市立博物館内）

☎870-9317

※宜野湾市制50周年記念写真集に掲載する写真を募集しています！
1962（昭和37）年前後の写真をお持ちの方はご一報ください。